

ソフトテニス部

井坂 茂夫

千葉大医学部ソフトテニス部 OB 会 50周年記念事業について

2009年（平成21年）千葉大学医学部ソフトテニス部 OB 会が設立50周年を迎えましたことを記念して、50周年記念 OB 会の開催と、記念誌作成を行いました。あまたの先人たちがプレーされましたソフトテニス部の歴史を振り返り、現在も多数の学生で部活動が活発に維持されていることを誇りとして、135周年記念誌ウェブ版に記念誌原稿の一部を投稿させていただきます。合わせて50周年記念 OB 会の集合写真と、当日昼の部に参加されたメンバーのテニスコート上での写真とを添えさせていただきます。ウェブ版ですので、集合写真を部分拡大して懐かしい友人たちの表情を楽しんでいただければ幸いです。文章は、OB 会長井坂のご挨拶と、ソフトテニス部の大先輩であるのはな同窓会の会長を務められている伊藤先生の寄稿文を載せさせていただきます。

<50周年記念事業に思う>

OB 会50周年記念事業実行委員長 井坂 茂夫

千葉大医学部軟庭部（以前はこう呼んでいました）の初代 OB 露崎輝夫先生がご卒業された昭和34年から半世紀50年が経過いたしました。歴史の重み、組織が継続されてきたことへのありがたさ、つ

くづく感じ入ります。2009年が OB 会50年になるので、ぜひとも記念事業として記念パーティー及び記念誌発行を行おうということになり、言い出しっぺの私が50周年記念事業実行委員長の役を担わせていただくこととなりました。記念誌の発行にあたり、OB、OG 諸氏のご協力に深く感謝申し上げます。懐かしい思い出をつづった本誌が刊行されることで、青春時代の思いがよみがえってくるように感じられます。医療を取り巻く環境が極度に悪化し、医者という職業が以前のように社会的な敬意を受けられなくなってしまったせいでしょうか、学生時代がとても輝いたときとして思い出されます。学生時代のほとんどの時間を軟庭部で過ごした自分にとって、このクラブのありがたさがしみじみ感じられます。そうは言っても卒業後33年を経て、記憶もおぼつかなくなってきました。自分が部活を楽しんだ7年間の、時々キャプテンと東医体開催場所を思い出してメモしておこうと考えました。間違いがあったら教えてください。昭和44年入学、桜井キャプテンの下、東京での東医体、昭和45年栗原キャプテンで札幌の東医体、昭和46年前川キャプテンで北上での東医体（この年大会開催中に雫石での飛行機事故がありました）、昭和47年岩津キャプテンで東京の東医体、この年自分としては初めての全医体：岡山に参加、昭和48年麻生キャプテンで前橋の東医体で団体3位、盛岡で全医体、昭和49年寺崎キャプテンで東京の東医体で団体3位、金沢の全医体に参加し



2009年 50周年記念OB会



2009年 50周年記念OB会 屋の部

て団体優勝（日本一）、昭和50年池上キャプテンで松本の東医体、千葉で全医体、このように記憶しています。あらためて字に書いてみると、それぞれのキャプテン世代、それぞれの東医体が懐かしく思い出されます。夏空のもと無心に白球を追いかけたあのころに帰れるものなら帰ってみたいです。自分たちの時代と比較すれば、看護学部、放射線技師学校の学生も一緒になって賑やかな部活となっているようです。ソフトテニス部がいつまでも盛んで、OB会がいつまでも楽しい会として続きますことを祈念いたします。

<昭和30年代頃のソフトテニス>

伊藤 晴夫

私が学生のころは、ソフトテニス部（当時の軟式庭球部）のコートは現在の駐車場のところにあった。いわゆる凡秋谷の底の部分であり、林の奥というか林に隠れた場所であった。したがって外からは殆ど見えない。外部からは隔離されたような雰囲気があり気取る必要がなかった。そうでなく飾り気のない気取らない学生が集まったのかもしれない。良く言えば素朴というか、あるいは田舎っぽいというか、そういう人が多かったように思う。ステテコで練習するのもいたし、私などは運動靴が無いので裸足で走っていたこともあった。ある先輩が裸足では怪我をして破傷風になってしまうぞと言って古い運動靴をくれたことは今でもよく覚えている。あの辺りは破傷風が案外と多かったそうである。最初のうちは、まだ女子学生はいなかったように思う。

これに反して、硬式庭球部のコートは連絡道路の

下にあった。多くの学生・職員に見られているわけであり、格好の良い学生が多かった。スマートで、ウェアも洗練されていて、颯爽とテニスをしていた。同級生でも多くの硬式テニス部の部員がいたが私にはとてもついていけないような感じもあった。私の同級生では万本盛三君が主将で、阿部一憲君が主務であった。お二人の人徳のため部はよくまとまって活躍していた。私は阿部一憲君と組んでいたが、彼は背が高いので前衛で相手を威圧し、取れそうもない球を取ったりしていた。ただし、私は初心者だったのにあまり

り熱心に練習しなかったことは心残りではある。合宿の時に福田康一郎君の父君（福田篤郎教授）から差し入れを戴き有難かったことを覚えている。時代は変わり、軟式テニス部はソフトテニス部と名称も変わり、部員もスマートで洗練された方が多いという感じがする。

私は腰痛に悩まされてきたが運動が良いということでテニスを始めた。ソフトテニスをしたかったが相手がいないので、仕方なくスポーツクラブで硬式テニスを行っている。週に2-3度くらいだろうか。不思議なことにと云うか、当然なのか、腰痛も治った。この歳でも上達してゆくことには元気付けられる。ただ、体力は落ちてゆくだろうから何歳までできるのか気に掛かる。この点で80歳過ぎの方でも上手なテニスをしている人がいて元気付けられる。

硬式テニスは球が硬いので危険性があるのが欠点だ。一番危ないのは目に当たることだと思う。特に若い人が思いっきりスマッシュしたボールが目当たったら失明してしまうかもしれない。ダブルスの時に、後ろからのボールが頭に当たることは何度か経験したが、当たり所が悪くなかったのか大したことはなかった。この点で、ソフトテニスは理想的だと思う。ボールが硬くないのでたとえ目に当たっても大丈夫だろうし、頭でもかなり安全と思う。今後、高齢者のスポーツとしてもソフトテニスは理想的だと考える。是非、ソフトテニスを普及させていきたいと思う。

（いさか しげお）